



# 水の大ぼうけん

固体の「氷」は、とけると液体の「水」になり、水を熱すると気体の「水蒸気」になります。そして、水を冷やせば氷になります。氷から液体を経ずに水蒸気になったり、水蒸気から氷になったりすることもあります。固体・液体・気体という3つの状態を、物質の三態とといいます。

液体



気化 (きか)

液体が気体になること。表面からの気化を「蒸発」、内部からの気化を「沸騰」という。



液化 (えきか) または凝結 (ぎょうけつ)  
気体が液体になること。

気体



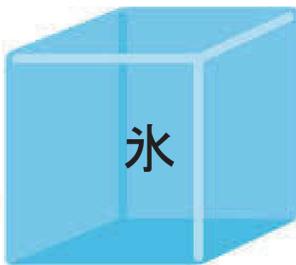
凝固 (ぎょうこ)

液体が固体になること。

融解 (ゆうかい)

固体が液体になること。

固体



昇華 (しょうか)

固体が気体になること。  
また、気体が固体になること。



## 自然の中で姿を変える水

地球をおおう水は、あらゆるところから蒸発し、雲を作り、雨や雪となって降ってきます。

雲は、実は気体ではありません。とても小さな水滴 (液体)、または、とても小さな氷のつぶ (固体) が集まったものなのです。空気中の水蒸気が上空で冷やされて雲ができます。その上空の気温の低さによって、液体か固体かが決まります。雲の中で成長した水滴が液体のまま落ちてくるのが雨、氷の結晶となって落ちてくるのが雪です。

固体、液体、気体の3つに姿を変えながら、空と陸と海や川との間を行ったり来たりしている水。水は、地球上を大冒険しているのです。

